

【テーマ】 計画全体の方向性

- | | | | |
|-----|--------------------|----------|--------|
| 論点1 | 計画の全体構成について | ・・・・・・・・ | P 2 |
| 論点2 | 主な見直しポイントについて | ・・・・ | P 3～4 |
| 論点3 | 目指す将来像について | ・・・・・・・・ | P 5 |
| 論点4 | 施策の方向性について | ・・・・・・・・ | P 6～7 |
| | ① 資源循環の推進 | | |
| | ② 廃棄物の適正処理の推進 | | |
| | ③ パートナリーシップによる課題解決 | | |
| 論点5 | 計画の数値目標について | ・・・・・・・・ | P 8～14 |

論点 1 計画の全体構成について

【たたき台】

第1章 総論

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の位置付け
- 3 計画の期間
- 4 廃棄物を取り巻く現況
- 5 目指す将来像
- 6 施策の方向性
 - ・資源循環の推進
 - ・廃棄物の適正処理の推進
 - ・パートナーシップによる課題解決
- 7 計画の進捗管理

第2章 廃棄物の現状と目標

<第1節> 廃棄物の現状

一般廃棄物、産業廃棄物及び食品ロスの排出量、リサイクル率（再生利用率）、処理施設、最終処分量、最終処分場の残余容量 等

<第2節> 数値目標

一般廃棄物	排出量、リサイクル率、最終処分量
産業廃棄物	排出量、出口側の循環利用率、最終処分量
食品ロス	排出量（家庭系、事業系）
その他	災害廃棄物仮置場候補地選定市町村数等

第3章 各主体の役割

【県民等】
4Rの取組

【事業者】
4Rの取組
産廃の適正処理

【市町村等】
4Rの推進
一廃の適正処理

【県】
4Rの推進
産廃の適正処理

第4章 資源循環の推進

<第1節>
廃棄物の発生抑制
(リデュース)の推進

<第2節>
使用済み製品の再利用
(リユース)の推進

<第3節>
適正な再生利用
(リサイクル)の推進

<第4節>
代替素材への転換
(リプレイス)の推進

<第5節>
循環経済への移行

新

※生産・製造段階における一層のリサイクルの推進、動静脈産業の連携の取組

<第6節>
食品ロス削減の推進

拡

※生産・製造から消費までの各段階における消費者、事業者、行政等の取組

<第7節>
環境教育等の推進

第5章 廃棄物の適正処理の推進

<第1節> 廃棄物の適正処理の推進

一般廃棄物の適正な処理、産業廃棄物の適正な処理、一般廃棄物処理施設の整備、ごみ処理広域化・集約化計画、公共関与による施設整備

<第2節> 災害等緊急時の適正処理体制の確保

拡

平時の備え（仮置場確保等）、災害発生時の対応、関係団体との協力・連携、広域連携体制

<第3節> 廃棄物の不法投棄等の防止

不法投棄対策、野外焼却対策、環境美化活動

※全体的に、これまでの取組状況や最近の資源循環を取り巻く状況、長野県の地域特性等を踏まえ、内容を見直し・更新する。

➤ 計画全体の構成はこのような方向性でよい

論点2 主な見直しポイントについて

【たたき台】

○主な見直しポイント

- 1 将来推計等に基づく数値目標（R12年度）の設定
- 2 循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行を循環型社会の形成に向けた重要な取組として新たに記載
しあわせ信州創造プラン3.0を踏まえつつ、廃棄物分野だけでなく製品の製造段階等も視野に入れて記載
例）県内ものづくり企業による、廃材・未利用材等のアップサイクルや環境負荷を低減する製品の創出に向けた研究会の運営、研究開発等を支援、信州リサイクル製品認定制度、下水汚泥肥料の利用・普及
- 3 食品ロスの削減に関する記載を充実
食品ロス等発生量の推計値・数値目標を記載し、生産・製造から消費までの各段階における消費者、事業者、県・市町村等の取組を整理
例）事業者による取組（3分の1慣習ルール等の見直し、規格外食材等の活用等）、消費期限・賞味期限間近の商品購入・値引き販売、残さず食べよう！30・10運動の推進
- 4 災害廃棄物の処理に関する記載を充実
災害廃棄物の仮置場候補地の選定や搬入出・管理運営体制の確保等事前の備えの重要性、公費解体・撤去の円滑な実施等を記載
- 5 社会的課題となっている事項について、社会の動向等を踏まえ記載
リチウム蓄電池等の適正処理、太陽光パネル等の適正処理、金属スクラップ等の適正処理、プラスチック資源循環促進法の施行 等

➤ 廃棄物を取り巻く現況や最近の動向を踏まえて、見直しポイントの方向性はよいか

＜廃棄物を取り巻く現況として考えられる要素＞

- 一般廃棄物は減少傾向、産業廃棄物は横ばい傾向
- 少子高齢化・人口減少の進行
- ライフスタイルや価値観の多様化
- 世界的な資源制約の顕在化、資源獲得競争の激化
- プラスチックをはじめとした資源循環を一層推進する重要性の高まり
- 2050ゼロカーボンの実現を始めとする地球環境問題への対応
- 災害の頻発化・激甚化
- 循環型社会形成の鍵としての循環経済への移行
- 食品ロスのうち、家庭系50%、事業系60%削減が全国目標（2000年度比で2030年度までに）
- 食品ロス削減はサプライチェーン全体で取り組む喫緊の課題
- 適正処理の重要性の高まり（リチウムイオン蓄電池の不適正廃棄による火災の発生、太陽光パネルの大量廃棄時代の到来、金属スクラップヤード対策 等）

論点 3 目指す将来像について

【たたき台】

< 目指す将来像 >

大量生産・大量消費型の経済社会から転換し、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減され、将来にわたって持続的な活動が行われる「循環型社会」（現行計画と同じ）

○大量生産・大量消費型の経済社会における環境等への影響

天然資源の枯渇、ごみの収集運搬・焼却等に伴うCO2排出、環境汚染、処理費用の増大・処分場の不足等、社会経済活動や日常生活に大きな影響を及ぼす。

○天然資源の消費の抑制、環境への負荷低減

このため、天然資源の利用削減のための資源の有効活用、温室効果ガスの排出抑制のための廃棄物焼却量等の削減、プラスチック・食品ロス削減など廃棄物の排出抑制・リサイクル等の取組が必要。

○将来にわたって持続的な活動が行われる「循環型社会」

< イメージ >

- ・ 4 R（リデュース、リユース、リサイクル、リプレイス）の取組が社会に浸透している
- ・ ごみの排出・焼却・埋立量やCO2排出量が少なくなっている
- ・ 資源や製品を循環的に利用し付加価値が創出されている
- ・ 天然資源の利用（投入量）が必要最小限となっている
- ・ 本県の美しく豊かな自然環境が守られている

➤ 第6期計画における「目指す将来像」はこの方向性でよい

【たたき台】

目指す将来像の達成に向け、本計画では、令和12年度の目標値を設定し、以下の3点の施策について取組を推進する。

1 資源循環（4 R）の推進

- ・ 循環型社会の形成に当たっては、まず、できる限り廃棄物の発生を抑制（リデュース）し、次に、廃棄物となったものについて再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）の順にできる限り循環的な利用を行う。
- ・ 廃棄物の3 R（リデュース、リユース、リサイクル）に、「長野県脱炭素社会づくり条例」で推進する使い捨てプラスチック製品等からのリプレイス（代替素材への転換）を加えた4 Rの取組等により資源循環を推進する。
- ・ 廃棄物等を資源として最大限活用する取組（循環経済への移行）、生産・製造から消費段階における食品ロス削減の取組を進める。
- ・ 長野県の地域特性を活かした取組を進める。

【たたき台】

2 廃棄物の適正処理の推進

- ・ 4 Rに取り組んだ上で、なお排出される廃棄物を適正に処理する。
- ・ 大雨や台風、大規模地震により発生する災害廃棄物を円滑かつ迅速に処理するために必要な体制を整備する。
- ・ 廃棄物の適正処理の確保、災害等緊急時の適正処理体制の確保、不法投棄等の防止等の取組を推進する。

3 パートナリシップで課題を解決

- ・ 廃棄物を取り巻く状況の変化に対応し、様々な課題を解決するためには、多様な主体によるパートナーシップが不可欠である。
- ・ SDG s の視点を踏まえ、県民、地域・NPO、事業者、行政機関等、あらゆる主体が連携し、持続可能な社会の実現を目指し、資源循環及び廃棄物の適正処理を推進する。

➤ 第6期計画における施策の方向性はよいか

論点 5 計画の数値目標について

【たたき台】

1 一般廃棄物

区 分	R12年度 推 計 値	R12年度 目 標 値	考 え 方
1 人 1 日 当 た り の ご み 排 出 量	774 g	740 g	全国最小水準以下の排出量を目指す。 (R5年度全国最小値749g)
総排出量	547千t	523千 t	1 人 1 日 当 た り の 排 出 量 × 人 口 × 365 日 (R5年度比約10%減)
リサイクル率	21.6%	25.0%	排出量減少の下でも資源回収量を増加させ、全国トップ3 (24.9%) 水準を目指す。 (R5年度全国 8 位)
最終処分量	24千t	21千t	再資源化を推進し、総排出量と同程度の削減（約10%減）を目指す。

2 産業廃棄物

区 分	R12年度 推 計 値	R12年度 目 標 値	考 え 方
排出量	4,495千t	4,400千t	排出抑制を推進し、R5水準より増加させない。
最終処分量	72千t	63千t	排出量はR5水準を維持する一方、最終処分量は再資源化の推進により約10%削減を目指す。
出口側の循環利用率	40.1%	41.0%	再資源化の推進によりR5年度比約10%増加を目指す。

※出口側の循環利用率＝「再生利用量＋金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、鉱さい、がれき類のそれぞれの減量化量」を「排出量」で除した数値。
※農業系廃棄物等は数値目標には計上していない。

論点 5 計画の数値目標について

【たたき台】

3 食品ロス

区 分	R5年度 推計値	R12年度 目標値	考え方
家庭系食品ロス量	36千t	30千t	さらなる減量化を進め、一般廃棄物の総排出量以上の削減（約15%減）を目指す。
事業系食品ロス量	24千t*	(20千t)	

* R4年度推計値。国において、R5年度の都道府県別のデータを集計中。公表され次第推計予定。

4 その他

区 分	R6年度 実績値	R12年度 目標値	考え方
災害廃棄物仮置場の候補地について選定済の市町村数	55市町村	77市町村	全市町村が候補地を選定する。
プラスチック使用製品廃棄物の分別回収（一括回収を含む）を実施している市町村数	18市町村 (R6.12.1時点)	77市町村	全市町村が分別回収を実施する。

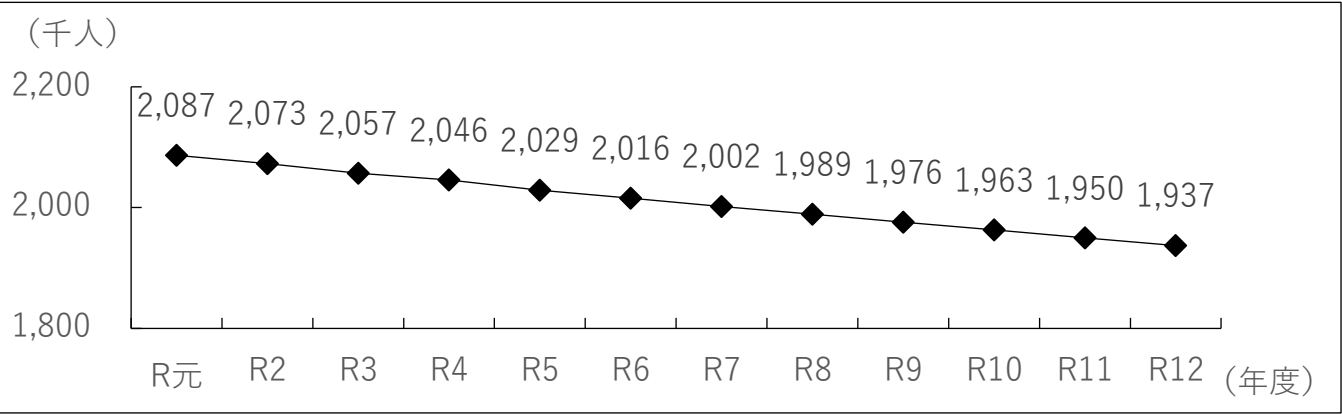
➤ 目標項目・数値をどのように設定するか

一般廃棄物及び産業廃棄物に関する将来推計

1 一般廃棄物に関する将来推計

(1) 生活系ごみ

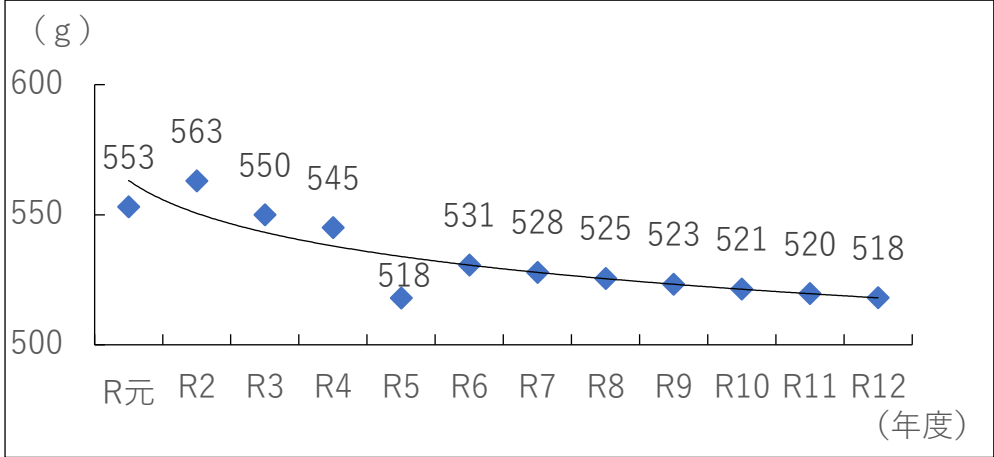
ア 長野県の人口推計



○R7以降は、年約0.7%の割合で人口が減少していくと推計される。

※R6年度からR12年度までの人口を、しあわせ信州創造プラン3.0における長野県人口の将来展望（改善ケース）を基に資源循環推進課が推計

イ 1人1日当たりの生活系ごみ排出量の推計



※過去5年間のトレンド（対数近似）からR6以降を推計

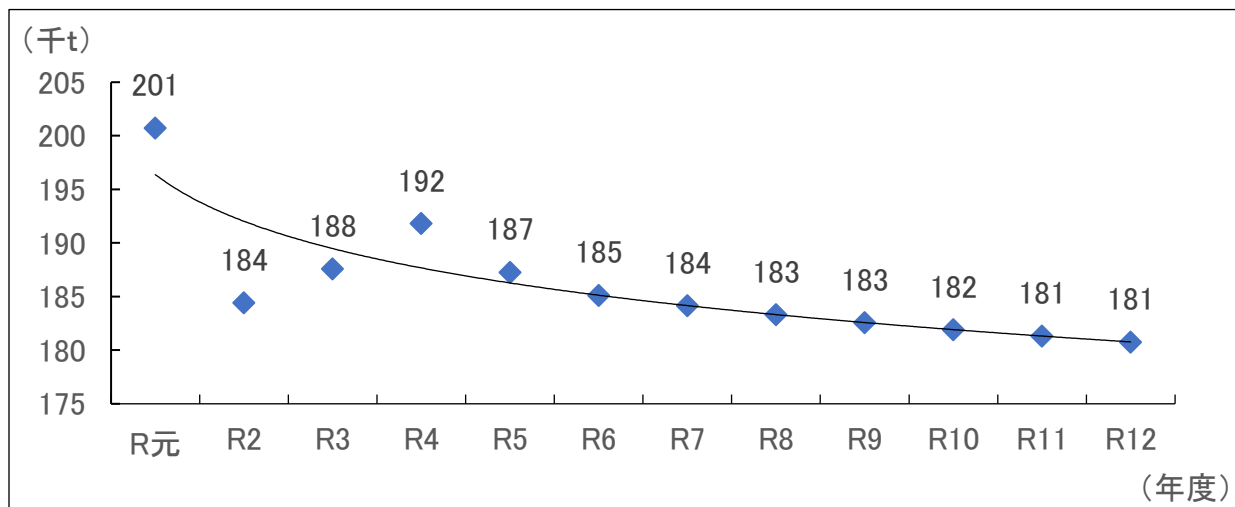
ウ 生活系ごみの排出量の推計結果

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
生活系ごみ排出量 (千t)	390	386	381	378	374	370	366

※生活系ごみ排出量 = 1人1日当たりの生活系ごみ排出量（g/人・日）×将来人口（人）
×年間日数（365又は366日）

一般廃棄物のうち、生活系ごみの排出量は人口に影響される。
近年、生活系ごみは減少傾向が続いており、今後も同様に推移すると推計される。

(2) 事業系ごみ



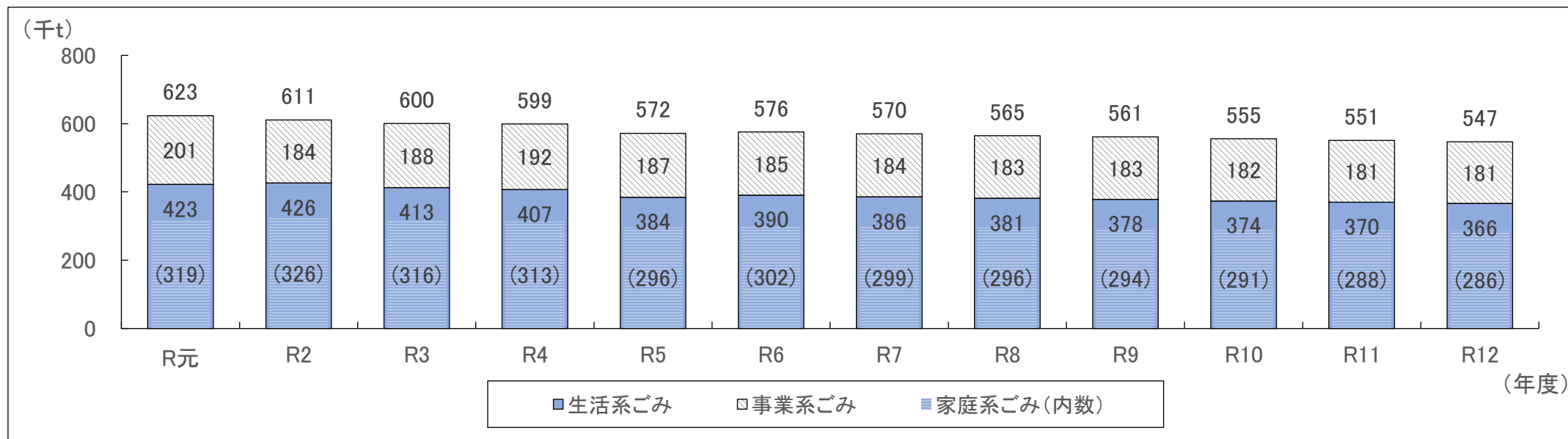
近年、事業系ごみは新型コロナウイルス感染症による社会経済活動への影響により年度間で比較的大きく増減したが、今後は横ばいで推移すると推計される。

<一般廃棄物の事業系ごみについて>

事業所から排出される廃棄物のうち、産業廃棄物に該当しないもの（食品廃棄物等の厨芥類、紙類等）

※過去5年間のトレンド（対数近似）からR6以降を推計

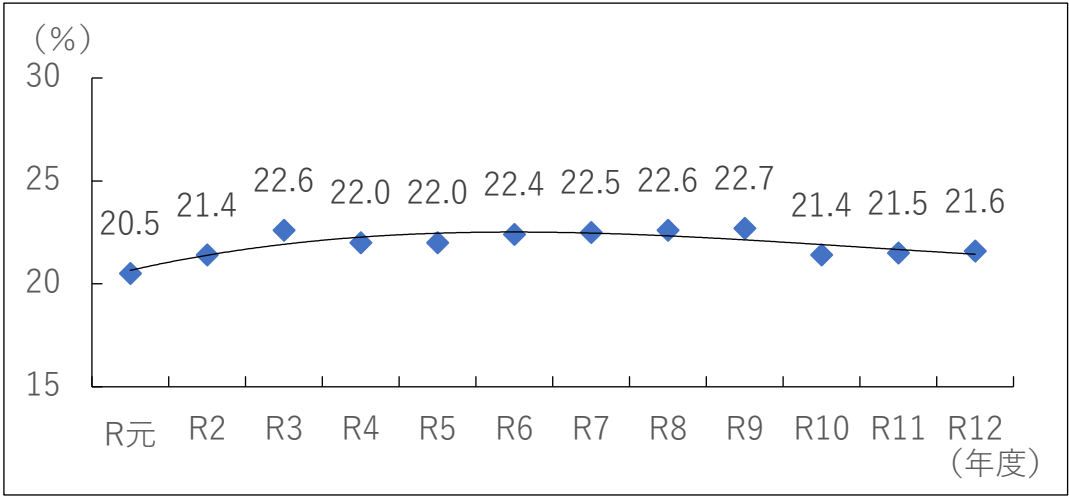
(3) 一般廃棄物の総排出量等の推計結果



※図中の数値は、四捨五入の関係で合計と個々の計が一致しないものがある。

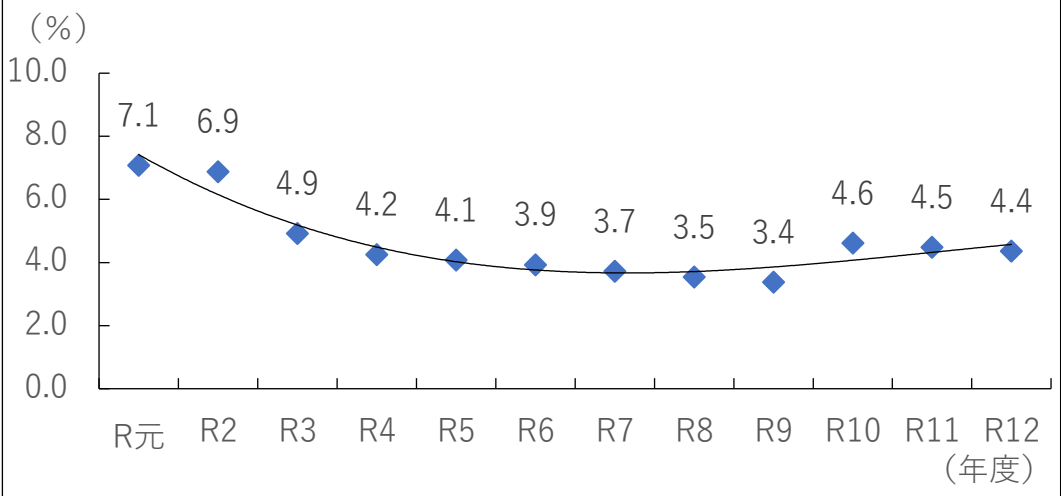
(4) リサイクル率及び最終処分率等

ア リサイクル率の推計



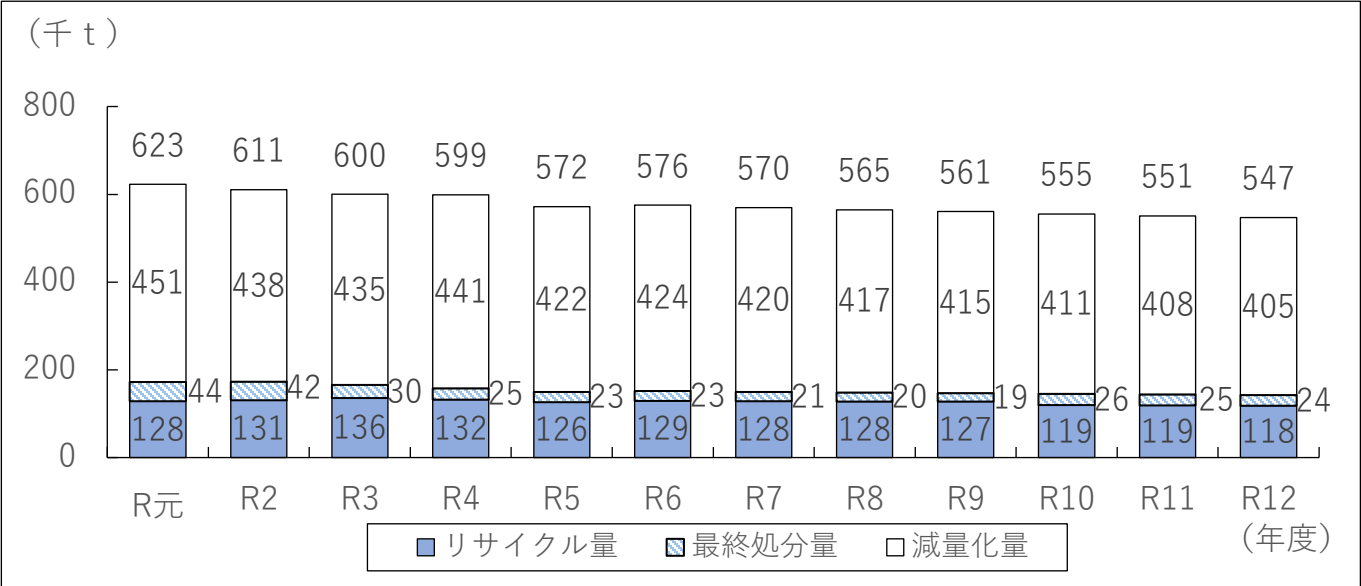
※過去5年間のトレンド（対数近似）及び今後の最終処分場の整備に伴う最終処分量の増加によるリサイクル率への影響を踏まえR6以降を推計

イ 最終処分率の推計



※過去5年間のトレンド（対数近似）及び今後の最終処分場の整備に伴う最終処分量の増加の影響を踏まえR6以降を推計

ウ 一般廃棄物のリサイクル量及び最終処分量等の推計結果

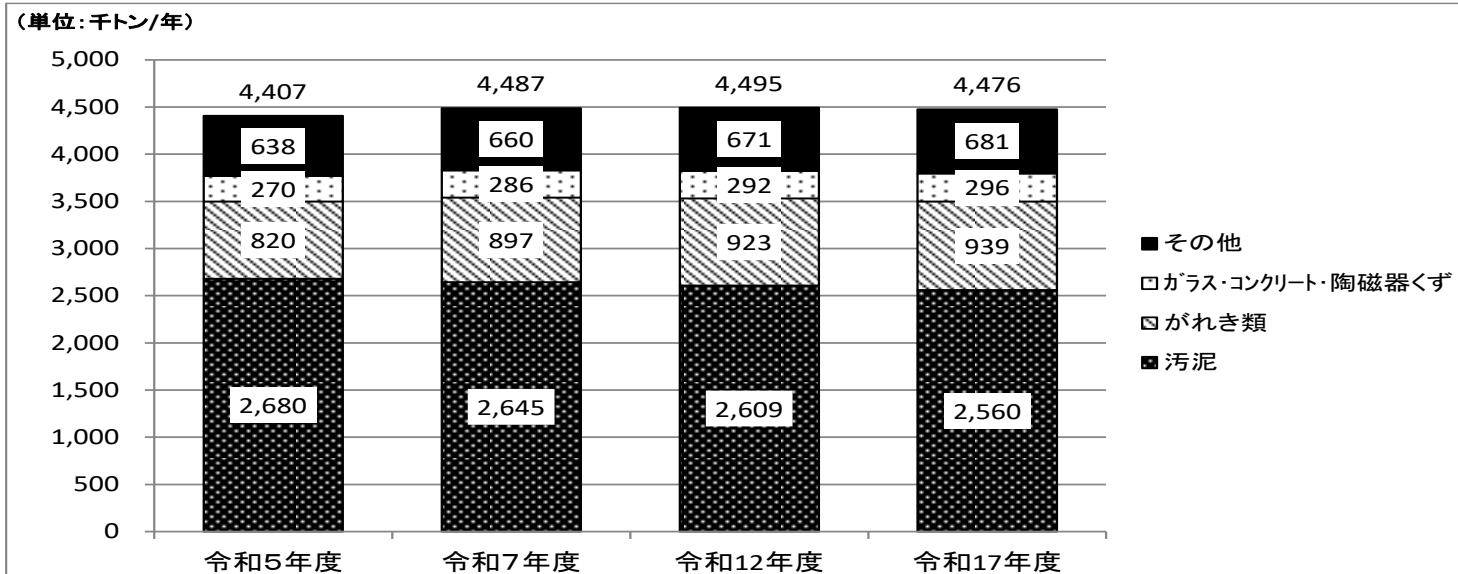


- リサイクル率は近年横ばい傾向にあり、今後も同様の推移が見込まれる。
- 最終処分率は、今後予定されている施設整備の影響で一時的に増加が見込まれるものの、全体的としては減少傾向で推移すると見込まれる。

※図中の数値は、四捨五入の関係で合計と個々の計が一致しないものがある。

2 産業廃棄物に関する将来推計値

(1) 産業廃棄物の種類別排出量の将来推計値

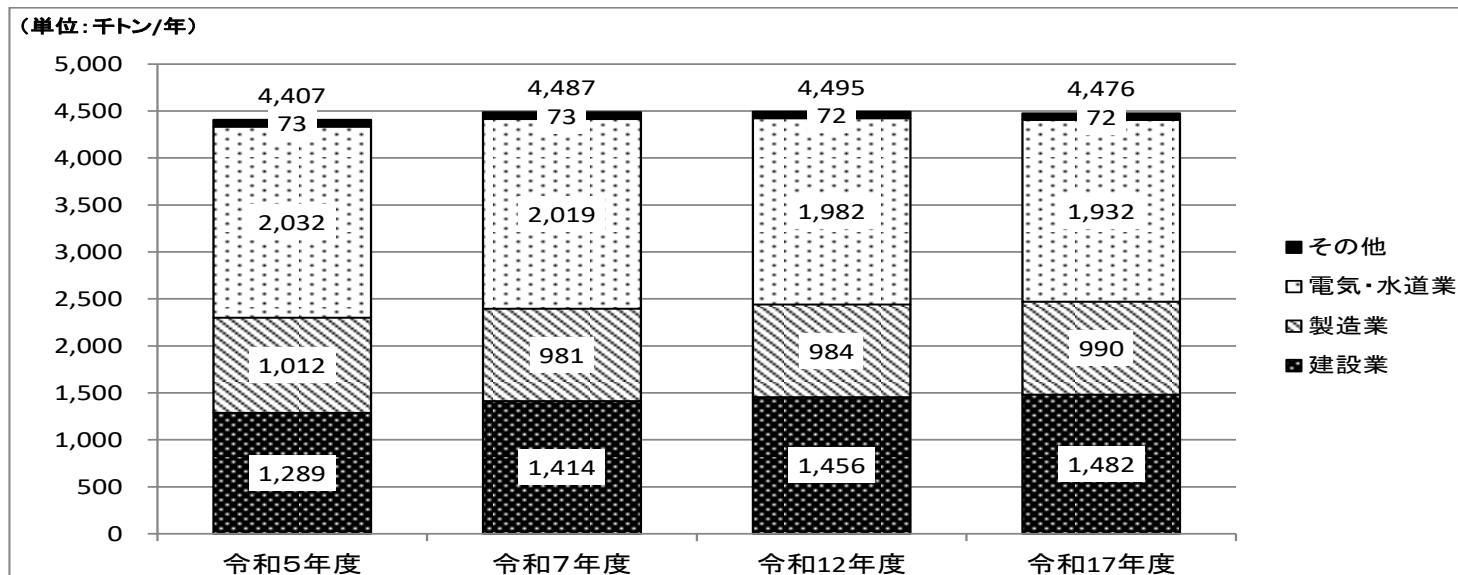


汚泥は減少傾向、がれき類とガラス・コンクリート・陶磁器くずは増加傾向となっている。

※図中の数値は、四捨五入の関係で合計と個々の計が一致しないものがある。

※R7以降が推計値

(2) 産業廃棄物の業種別排出量の将来推計値

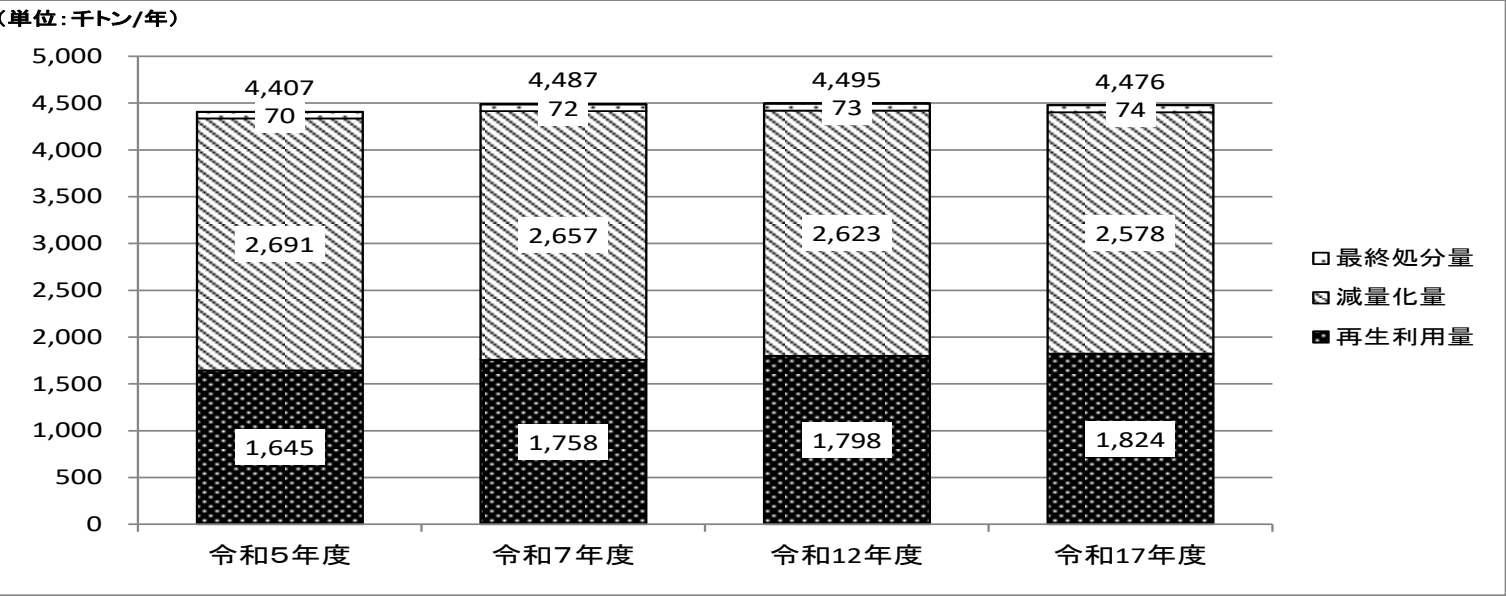


建設業は増加傾向、電気・水道事業、製造業は減少傾向の見込みとなっている。

※図中の数値は、四捨五入の関係で合計と個々の計が一致しないものがある。

※R7以降が推計値

(3) 産業廃棄物の処理・処分別排出量の将来推計値



再生利用量、最終処分量は増加、減量化量は減少傾向の見込みとなっている。

※図中の数値は、四捨五入の関係で合計と個々の計が一致しないものがある。

※R7以降が推計値